

科目ナンバー	ARS-2-012-k			科目名	多文化共生社会Ⅱ		
教員名	西館 崇			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	いま、私たちが住む世界は、世界中から人、もの、カネ、情報が私たちに集まり、同時に私たち自身や私たちのもの、カネ、情報も世界中に出ていくというグローバル化した社会です。グローバル化した世界では、予想もしない所につながりができることもあれば、価値観・文化などの違いにより誤解や葛藤が生じることもあります。本授業では、2年生以上を対象とし、資料を読み込み「世界」と「私」をつなげながら、共生・助け合いへの道について探っていきます。						
到達目標	次のことをこの授業の目標とします。①グローバル化した社会の仕組みをより深く理解する。②グローバル化による光の部分と影の部分があることを知った上で、その改善についても考える。③地域を歩きながら、グローバルとローカルをつなげて物事をみる視点が持てるようになる。④グループ討論のなかで意見を持って参加でき、必要に応じて口頭発表もできるようになる。⑤フィールドワークや資料調査を通してわかった知見や自分の意見を持って文書作成ができる。						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力	○	伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度	○	自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力	○
グローバル・マインド	○	主体性		関係を構築する力		実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	アクティブラーニングが中心の授業になります。毎回の授業はおおよそ以下の3セッションで構成されます。①最初の30分は、教員や発表担当の学生の発表を通じて、基本的に知るべき知見を整理する。②テーマを決めて、各グループで討論・ワークを行いグループ内で共有する。③各グループの討論やワークの結果を全体の前で発表しながら共有してから、振り返りまとめをする。						
アクティブラーニング	○	サービスラーニング			課題解決型学修		
受講条件 前提科目	アクティブラーニングの形で行うので、定員60名にする。定員を超える人数の履修申請があった場合の優先順位は以下の通りとする。①国際コース2年、②心理・人間文化コース2年、③それ以外のコース2年、④国際コース・心理人間文化コース3・4年、⑤その他のコース3・4年。						
アセスメントポリシー及び評価方法	授業への参加や期末レポートなどを用いて総合的に評価する。①通常の授業のグループワーク・討論などへの参加や貢献 30%②グループ当番として行うテキスト要約説明の発表 30%③最終課題として提出されるレポート40%						
教材	『私たちの国際学の「学び」?大切なのは「正しい答え」ではない』奥田孝晴・椎野信雄(編)新評論 2015年。ISBN9784794809995						
参考図書	『多文化共生キーワード事典』多文化共生キーワード事典編集委員会 明石書店 2004年 『多文化共生のためのテキストブック』松尾知明 明石書店 2011年 『ヘイトスピーチとは何か』師岡康子 岩波書店 2013年 『共生社会の異文化間コミュニケーション』ベイツ・ホッフア、本名信行、竹下裕子(編)三修社 2009年 『文化とは何か、どこにあるのかー対立と共生をめぐる心理学』山本登志哉 新曜社 2015年 『群馬で学ぶ多文化共生』西館崇・大嶋果織・本堂晴生 上毛新聞社 2019年						
内容・スケジュール							
1週目							
授業学修内容	シラバス授業:授業ガイダンス授業の概要と到達目標、スケジュール、評価方法、関連資料等についてシラバスに基づき解説する。						
授業外学修内容						時間数	
2週目							
授業学修内容	コンビニから見える世界のありようを捉えながら、これまで勉強してきた「国際」「グローバル」「多文化」などをキーワードに「あなたと私の関係」と「あなたたちと私たち」の関係を捉えてみる。						
授業外学修内容	「国際」「グローバル」「多文化」をキーワードに各自考えていることをA4用紙1枚以内にメモを書いてみる。					時間数	1
3週目							
授業学修内容	「旅する」ことから、グローバル化時代を考えてみる。信仰の旅、戦争の旅、交易の旅、旅から観光へなどを捉えつつ、グローバル化時代の旅することについて考えてみる。						
授業外学修内	テキストp29～49を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表を準						

容	備する。	時間数	2
4週目			
授業学修内容	第3世界の「彼(彼女)ら」と「私」と「私たち」を考えてみる。貧しい国と豊かな国が生まれるのはなぜか、貧しい国の彼・彼女と私・私たちはどのような関係なのかについて捉える。		
授業外学修内容	テキストp50～72を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
5週目			
授業学修内容	変わりゆく気候、地球環境を捉え、環境問題はどのような問題かを具体的に考えてみる。そして、環境問題の解決に向かうためのヒントについて考える。		
授業外学修内容	テキストp73～94を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
6週目			
授業学修内容	ゲストスピーカーの講演JICAの国際ボランティア等の活動を行う方をお招きし、貧困国の状況や生活文化等についてお話を聞き、議論する。		
授業外学修内容	貧困国の生活に関する新聞・雑誌記事を調べて授業にもってくる。	時間数	1
7週目			
授業学修内容	企業の多国籍化について捉え、その現状と問題点を考える。具体的に、企業が多国籍化することはどういうことか、途上国と多国籍企業との関係などから、地球市民と多国籍企業の関わりについて議論していく。		
授業外学修内容	テキストp114～134を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
8週目			
授業学修内容	グローバリゼーションのもとでの地域社会を捉えてみる。グローバリゼーションによる途上国や、日本の地域社会がどのような変化してきたのか、これからどのように地域再生の道を行くべきかについて考えていく。		
授業外学修内容	テキストp134～154を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
9週目			
授業学修内容	多文化社会を生きる「私」：日本の中の異文化・多文化を捉えつつ、自分と自分の文化との調整について考える。		
授業外学修内容	テキスト155～175を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
10週目			
授業学修内容	「豊かさ」について考える：福島の悲劇や沖縄の戦争の記憶、現代の物質世界等を関連させながら、「豊かさ」を捉え直し、「真に豊かな私たちの世界」をどう共に作りあげていけるのかについて考える。		
授業外学修内容	テキストp216～237を読んでくる。発表担当者は要約と討論テーマの発表の準備をしてくる。	時間数	2
11週目			
授業学修内容	映画から捉える、多文化共生社会貧困・豊かさ・多文化共生とは何かを考えながら分析的に映画を見ることから、現在の私たちの社会の現状と課題を考えてみる。		
授業外学修内容	豊かな社会は、どのような社会なのかについて各自考えてみる。	時間数	1
12週目			
授業学修内容	いま、ホットな世界のニュースを取り上げる。ニュースの記事を用いて、世界の動きに関する多様な視点を整理し、それぞれの視点での主張や取組がどう異なるかを分析し、グループでまとめてみる。		
授業外学修内容	とりあげるテーマを決めると、それに関して各自調べて、メモしたり・コピーして授業に持ってくる。	時間数	1
13週目			
授業学修内容	いま、ホットな日本のニュースを取り上げる。ニュースの記事を用いて、日本の中の「多文化共生」と関連する様々な視点を整理し、それぞれの視点での主張や取組がどのように異なるかを分析し、グループでまとめる。		
授業外学修内容	とりあげるテーマを決めると、それに関して各自調べて、メモしたり・コピーして授業に持ってくる。	時間数	1

14週目			
授業学修内容	各自、自分のテーマで調べてまとめたレポートを持って、グループ内で共有し、ポスターに表現して、最後に全体でポスター発表をする。		
授業外学修内容	各自のテーマについて、地域を歩いたり、新聞記事を集めたりしながら調査を行い、レポートにまとめて授業時に持ってくる。	時間数	15
15週目			
授業学修内容	まとめ。授業で取り上げてきたテーマを振り返り、グローバル化した社会を生きる私たちは、多文化共生のためにどのような対応が必要なのか、もう一度考えてまとめる。		
授業外学修内容	いままでの資料を読みあさり、テーマごとに振り返りをしておく。	時間数	1
上記の授業外学修時間の合計		35	
その他に必要な自習時間		55	

Number	ARS-2-012-k	Subject	Multi-Cultural Symbiotic Societies II		
Name	西舘 崇 (Nishitate Takashi)	Year and semester	S Second semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>We live in a globalized world today, where people, goods, money, and information from across the globe are gathered in front of us. We ourselves, our goods, money, and information also are sent out for the world to consume. In such a globalized world, we may enjoy the blessing of connecting with others in an unexpected fashion and may also encounter prejudice and hostility due to differences in values and culture.</p> <p>This course will be available for students in their second year and above. Students will read various materials to find pathways to coexistence and mutual cooperation, while connecting the “world” and “me”.</p>				